



自然共生研究センター実験施設の特徴

3本の川があります。

1本の真っ直ぐな川と2本の曲がった川があります。それぞれの条件を変えて比較実験を行うことができます。

洪水を起こすことができます。

自然の川から水を引いて、上流に貯め、水量をコントロールしながら川に水を流すことができます。

様々なしかけが作ってあります。

曲がった川には、瀬や淵、ワンドなどがつくられ、生き物が空間をどのように利用しているのかを調べることができます。



実験池

実験池は、植物が生えないように池のまわりがコンクリートでつくられた池が2つ、自然に植物が生えるように土でつくられた池が4つあります。ここでは、池の中に植物があることで、池の中の生態系や水質がどのように変化するかを研究します。



河原植物保全研究ゾーン

ここでは、河原植物と外来植物との関係について研究し、河原らしい植生を保全する方法について検討しています。

今回の特集の取り組みで完成した研究解説パネルの設置場所

- A 魚類パネル
- B 付着藻類パネル
- C 河原植物パネル
- D 底生動物パネル
- E 水質パネル
- F 流下能力パネル

配水池

新境川の水はこの配水池から制水槽を經由して実験河川・実験池に配水されます。また配水池のゲートを倒すことによって、各河川に毎秒4m²の人工的な出水を起こすことができます。



ハビタット研究ゾーン

ハビタットとは生き物のすみかのことです。ここでは、川を蛇行させて流れに変化を与え、瀬、淵、よどみなどをつくり、生き物が川の空間をどのように使うのか、また、それらを保全するためにどのようにすればよいのかを研究しています。

(延長:180m、河床勾配:1/200~1/400)



自然河岸形成研究ゾーン

川の工事によって川幅を広げると、川は土や砂の堆積作用によってまたもとの川幅に戻ろうとします。ここでは、木杭などを設置し、このような川の自然の力を利用しながら、効率よく河岸をつくる技術を研究しています。

(延長:100m、河床勾配:1/800)



冠水頻度研究ゾーン

河原の高さを変化させることにより冠水頻度の条件を変え、どのような植物が、川のどのような場所に育ちやすいかというのを研究しています。

(延長:110m、河床勾配:1/800)



研究棟

研究棟には、研究室、水質実験室、実験制御室、図書室、ビジタールームなどがあります。ビジタールームと図書室は一般に公開しています。実験制御室には大型の映像スクリーンがあり、屋外に取り付けたカメラから実験施設の様子をみることができます。



河岸開発研究ゾーン

実験河川が一番下流にあるこのゾーンは、上流のハビタット研究ゾーンと同じように蛇行させ、瀬や淵をつくった区間です。実験河川の上流と下流の生き物の生息状況等を比較できるようにつくられています。

(延長:180m、河床勾配:1/280)



ワンド研究ゾーン

ワンドは魚の産卵場、稚魚の成育場、増水時の避難場所としての役割を持っています。ここでは、ワンドの形や水循環の状況を変化させ、ワンドの果たす役割を研究しています。

(延長:110m、河床勾配:1/800)